

[Message]
特集

輝く先輩方からのメッセージ

M E S S A G E S F R O M G R A D U A T E S

皆さんそれぞれの「花」を、このキャンパスで咲かせて下さい！



プロフィール
向山恵理子 1999年卒。青山学院大学文学部教育学科卒業。アフリカの音楽に魅了され、単身ケニア奥地の村で修業を積み、ルオー民族の伝統弦楽器「ニャティティ」の世界初の女性奏者となる。日本ケニア文化親善大使。日本国内だけではなく、アフリカ、ヨーロッパなどでも広く演奏活動を行っている。

ニャティティ奏者

アニャンゴさん

ケニア共和国ルオー民族の伝統楽器「ニャティティ」をアニャンゴ（午前中に生まれた女の子の意）の名で演奏しています。ハーブの原形とも云われるニャティティは、現地の選ばれた男性にしか演奏が許されない楽器。大学卒業後、初めて聴いたニャティティに魅了されてケニアに渡り、電気も水道もない奥地の村で2ヶ月生活するうちに、師匠に認められ、教えてもらうことができました。

私の原形は高校時代にあったように思います。青山学院高等部は自由で開かれた校風で、国際色も豊か。私の2つ上の学年にはDragon Ashの降谷建志さんがいらっしやり、ほかにもプロのお笑いを目指すグループ、歌舞伎をやっている先輩などがいました。私自身も当時すでに音楽を楽しんでおり、4つ〜5つのバンドを主催して、お昼休みに中庭でゲリラライブなどをしていました。音楽のプロを目指したいと思ったのも高校時代。音楽修業のために海外へ飛び出そうと思えたのも、周りに帰国子女の生徒や、国連で働く夢を持った友人など、世界を舞台に考えている人が多かったからかもしれません。

先生方は生徒を一人の人間として認め、必要以上の深入りはせず、優しく生徒たちを見守ってくれました。個性を潰さず、「やりたい」という気持ちを否定しない懐の深さ。皆さんが主体的に動くならば、勉強でも芸術でも、先生方は後押しをしてくれるはずですよ。

日本ケニア文化親善大使として学校公演もしています。ソーラン節とニャティティを融合したニャティティソーランをつくり、札幌 YOSAKOI ソーラン祭りで踊ったこともあります。2009年には『Newsweek Japan』で「世界が尊敬する日本人100人」に選んでいただきました。日本とアフリカの架け橋として、これからも文化を通じた国際交流を進めていければと思います。

さまざまな個性を認め、伸ばしてくれる青山学院高等部。この恵まれた環境で、長い人生の中で最も重要といえる3年間を過ごし、皆さんそれぞれの「花」を咲かせてください。

ゆとりある高校生活で、自分の世界を広げてください。



プロフィール
2005年卒。青山学院大学法学部卒業。青山学院大学法務研究科（法科大学院）修了。2013年に司法試験に合格し、2015年1月弁護士登録（第二東京弁護士会）。現在、現松田山崎法律事務所所属。主に学校法務、IT関連法務、企業間取引、労働法務、少年事件を中心に手掛ける。

弁護士

吉川 武志さん

青山学院高等部の推薦入試が始まった年に入学した、推薦入試の一期生です。毎朝5時に起床し、片道二時間かけて通学するのは大変でしたが、そこで私は得難い経験をすることができました。

高等部には青山学院大学への内部進学制度があり、皆が大学受験をする必要がないので、高校生活に少し余裕があります。友達の影響で映画や音楽に興味を持ったのもこの頃です。学校から徒歩圏内に多くの映画館やCD・レコード店があったのは大きかったですね。映画や音楽、読書等で様々な文化に触れる機会があったことは、世界を広げてくれました。

高等部には聖書の授業や礼拝があり、絵画や映画を鑑賞する際の教養となるなど役に立っています。海外で活躍することを目指している方はもちろん、そうでなくとも、将来、自分と異なる文化的背景を持った人々とのかわり合いは避けられませんので、「キリスト教」や「信仰」に触れておくことにはとても意義があると思います。

先生方は生徒にとっても丁寧に接してくれて、一人一人を気にかけている印象でした。印象深いのは、柔道の授業で自分の不注意のため怪我をした時、病院での処置が終わったのは夜でしたが、その間、柔道の先生が付き添ってくれていたことです。

受験生の中には「中等部からの内部生の輪の中に入れるか」と不安に思っている方もいるかもしれません。私もそういった不安はありましたが、入学後わりとすぐに内部も外部も関係なくなり、気にならなりました。部活の友人は内部生も多かったのですが、戦友のような存在で、今でも交流があります。

現在、私は弁護士業務として、学校法人青山学院の総務部法務課で学校法務を担当させていただいておりますが、入学当初から弁護士を目指していたわけではありません。高校と大学の「7年」というスパンで、やりたいことを見つけることができました。だからこそ、私は今この仕事をしています。自由な選択ができること、能力を発揮しやすい環境であることもこの学校の魅力だと思います。

今に繋がるかけがえのない3年間



プロフィール
2002年卒。青山学院大学文学部教育学科卒業。Institute of Education, University of London. MA in Comparative Education 修了。PhD in Comparative Education (candidate), UCL Institute of Education, University College London を経て、2016年より青山学院大学地球社会共生学部助教。専門は比較教育学。

青山学院大学地球社会共生学部 助教

橋本 彩花さん

小学生時代、私は一時期アメリカに滞在していましたが、帰国後は帰国子女として珍しがられ、肩身の狭い思いをしたこともあり。しかし中等部から入った青山学院には、誰かを除外するようなところが全くなく、生徒それぞれの個性が尊重される環境が整っていました。当時から、青山学院には多様性を土壌として一人ひとりを受け入れる先駆的なポリシーがあったのです。そこで学校生活を共にした友人は、年月を重ねた今も、私の人生のかけがえのない宝物です。

高等部の先生方は皆、それぞれの専門や教育に対する熱意を持っていました。また、生徒一人ひとりをよく見ていて、進路で悩んでいた私に、担任の先生は「人と一緒に何かするのが好きな橋本さんは教育に向いているのでは」とアドバイスもいただきました。

2年生の時には、生徒会の集会委員長を務めました。生徒集会を企画・運営する組織だったのですが、中でも印象深いのはミュージックフェスティバル。生徒たちが演奏や歌唱を披露する賑やかなイベントです。ここで私は、出演団体の選考や、委員や出演者のとりまとめなど、組織を動かすという貴重な経験をしました。この経験から私は、一つのプロジェクトには多くの人々が携わっていること、そして、その一つ一つの存在が不可欠であることを知りました。

私は大学時代、外国にルーツを持つ子どもたちに日本語を教えたり、イギリス留学中には多様な文化背景を持つ子どもたちのための教育システムについて研究したりしました。現在は大学教員として、専門の科目を担当するとともに、海外留学のサポートをする立場にあります。そこで思うのは、「世界規模の視点を持つ」ために大切なものは、言語能力だけではなく、自分自身と異なる人々とのコミュニケーションであるということ。高校時代に友人や先生に受け入れてもらった経験や、多くの人とプロジェクトを作り上げた経験が、今の私に大きな影響を与えています。高校生活の3年間を謳歌させてくれた青山学院高等部には本当に感謝しています。